# 薬草の花咲く歴史の公園

重要文化財旧高野家住宅・歴史公園「甘草屋敷」

### ご利用料金

■個人 大人300円 小人・学生200円 ■団体 大人200円 小人·学生100円

※団体は20名以上 ※小人は6歳以上 20歳未満、および20歳以上の学生 ※ご希望により、ボランティアガイド員 による説明をお聞きいただけます。 ※子ども図書館のご利用は無料です。

# ご案内

#### ■所 在 地

〒404-0042 山梨県甲州市塩山上於曽1651-15 TEL 0553-33-5910

●甘草屋敷子ども図書館 囮0553-33-5926 囮0553-33-5932 ●特産物販売所(長屋内)

# TEL FAX 0553-33-5917

#### ■開館時間

午前9時から午後4時30まで (子ども図書館は午前9時30分から) ■休館日

火曜日(祝祭日にあたる場合は、その 翌日)、年末年始(12月28日~1月4日)

#### ■交诵機関

JR塩山駅北口より徒歩1分

#### ■お問い合わせ

甲州市教育委員会 生涯学習課 〒404-0042甲州市塩山上於曽1085-1 EL0553-32-5097 FM0553-32-5172





甲州市 URL: http://www.city.koshu.yamanashi.jp



山梨県甲州市



秋のオミナエシ 下/妻飾りにみられる「鷹」

# ようこそ「薬草の花咲く歴史の公園」へ

甲州市では、平成5年度に旧所有者から重要文化財高野家住宅(主屋)の寄附を受けたことを機に、翌6年度から「薬草の花咲く歴史の公園」甘草屋敷整備事業として、用地・建物の公有化をはじめ文化財建造物の保存修理事業、宅地の公園整備事業などを実施してきました。

平成13年5月、主屋の寄附から8年の歳月を経て、旧高野家住宅・甘草屋敷は、歴史的建造物と屋敷構えとが一体となった「薬草の花咲く歴史の公園」として再生されました。

また、平成14年7月には、附属屋・文庫蔵に「甘草屋敷子ども図書館」を整備し、親子の触れあいの場として活用を始めています。同年9月に皇太子・同妃両殿下の行啓をいただいたことを記念し、子ども図書館に面し行啓碑が建てられています。

# 甘草屋敷の由来

高野家は、江戸時代に薬用植物 である甘草の栽培をして幕府に納 めていた家で、古くから「甘草屋敷」



と呼ばれてきました。高野家の沿革がわかる貴重な資料「甲州甘草文書」(県指定文化財)によると、八代将軍徳川吉宗治世の享保5年(1720)、幕府の採薬使・丹羽正伯が当家屋敷内にあった甘草を見分した結果、幕府御用としてその栽培と管理が申し渡されるとともに、一反十九歩の甘草園は年貢・諸役を免除され、以後ここで栽培する甘草は幕府直営の薬草園で栽培するための補給源として、また薬種として幕府への上納を負うこととなりました。



甘草の花 下/甘草園の甘草

#### 甘草カンゾウ

甘草は甘味料や調味料として多く使われる一方、薬用としても広く用いられ、重要な生薬でもあります。ウラルカンゾウ(Glycyrrhiza uralensis)やグラブラカンゾウ(G.glabra)などの種類があり、日本では年間数千トンが輸入されています。このうち食品の甘味料として3分の2が使われ、残り3分の1が薬用にされます。甘さの成分も薬用の成分も同じで、根や根茎に含まれるグリチルリチンです。

薬用の甘草は主に漢方薬の原料とされ、厚生労働省指 定漢方処方210品目中150処方(71%)に含まれています。こ のため、甘草がなければ、大半の漢方処方は成立しません。

甘草屋敷の甘草はウラルカンゾウです。高野家ではこの甘草栽培により、明治5年まで免税の特典を受けました。 屋敷内に設けられた甘草園に自生する甘草は、「甲州甘草文書」の記述によると少なくとも340年を経ていることになり、日本で最も古い由緒を持つものです。

甘草園に生えているものがもともとの株ですが、これを

バイオ増殖した株が前庭広場西側の一角に植えられています。両者は、DNAレベルでまったく同じ甘草です。また、薬草広場の中に植えられている甘草は、国内で最も薬用成分が多い、北海道医療大学の甘草を分けていただいたものです。





**○**主屋









3馬屋 4東門 5文庫蔵 6小屋





装飾化が進んだ妻壁

# 重要文化財旧高野家住宅

甲州を代表する民家として、高野家住宅(主屋)は全国的な民家調査が始まる以前の昭和28年3月31日に重要文化財に指定されました。

19世紀初頭の建築と考えられ、桁行十三間半(24.8m)、梁間六間(10.9 m)という規模で、屋根は大棟を東西に通した切妻造、茅葺屋根(現在は茅葺型鋼板葺)、また、南面中央に二段を主げ屋根を設けています。な様を支える柱は高く棟まで通る様で、これに梁を重ねて渡した遺をを支える柱は高く棟まで通るで、これに梁を重ねて渡した豊壁の構造は、優れた美観を呈しています。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻をまた。この棟持柱は、同じく茅葺切妻といる。

また、平成8年7月9日付けで、附属屋として異蔵・馬屋・東門・文庫蔵・小屋の五棟、附として地実棚・裏門・座敷門の三棟、さらに井戸・池・石橋・石垣を含む宅地4,932.07㎡が重要文化財の追加指定を受け、名称も「旧高野家住宅」に変更されました。

この追加指定により、単なる民家一棟 を保護保存するだけでなく、江戸時 代末期から明治時代初頭にかけての 屋敷構えとして活用しながら後世に 伝えていくこととなりました。

7附 地実棚 ③附 裏門 ④附 座敷門⑩長屋 ⑪土蔵 ⑫西門

















甘草屋敷 子ども図書館

# 甘草屋敷・職人の仕事「今昔」

異蔵には入口が東・西の2ケ所あります。このうち、東側(左)の入口の左官仕事は約200年前の職人が、西側(右)の入口は現在の職人が手がけたものです。同じ意匠による職人の仕事ぶりを比較してみてください。







各建造物の地面に 近い柱や屋根材は湿 気により腐りやすいた め、腐った部分のみ 新しい木材を充て、で きるだけ古い部材を 残して整備をしていま す。屋根の瓦も同じ です。

文庫蔵(左)と小屋(右)の内部には、不粋な鉄骨が立っています。これは耐震補強用のもので、地震のゆれにより万が一建造物が破損しても、これらの鉄骨により支えられ、人命に必要な「空間」をつくります。



